

# 進路だより 第6号 (12月19日)

日本大学櫻丘高等学校 進路指導部



3年生対象 進路説明会卒業生パネルディスカッション (9/6実施) より

## はじめに

12月になり、受験生としては最後の追い込みの時期を迎えています。感染症の流行が気になる時期でもあります。体調管理に十分注意し、最後まであきらめずに取り組んで欲しいと思います。また、進路決定者は入学手続きを済ませるとともに、入学前課題や資格検定試験に向けて学習を進めるなど、有意義な生活を送りましょう。

1, 2年生にとっては、2学期は文系理系のコース選択や受験科目を見据えた科目選択など重要な節目となる時期でした。出張講義(1年生)や進路説明会(2年生)など、進路について考えるきっかけとなる行事も多く経験できました。すぐに答えはでなくても、視野を広げて考え続けることが大切です。加えて、授業を大切に基礎学力をきちんと高めていくことも重要です。階段を頑張って駆け上がり、高いところから周囲を見渡すと、より遠くまで見渡せるようになります。同様に、学習を重ねて自分のレベルが上がると、そこから見える景色は広がり進路に対しても新しい気づきが得られるかも知れません。

受験生はもちろん、1, 2年生にとっても充実した冬休みを過ごせるよう、祈っています。

## 今回の内容

- 1 【全学年】  
英検と大学入試について
- 2 【2,3年生】  
進路説明会を開催しました
- 3 【1, 2年生】  
共通テスト同日体験に  
チャレンジ!
- 4 【3年生】  
いよいよ入試本番! 合格ラインを突破!

## 【今後の主な進路行事】

- 12 / 20 (土) 終業式  
/ 22 (月) 冬期特別講習  
~ 26 (金)
- 1 / 8 (木) 始業式  
/ 17 (土) 大学入学共通テスト  
~ 18 (日)  
/ 19 (月) 共通テスト自己採点  
/ 23 (金) 午後英検
- 2 / 2 (月) 1年進研模試  
2年G日大チャレンジ模試  
S進研共テ模試



# 進路説明会を開催しました

11月8日（土）に、2年生対象の進路説明会を実施しました。

進路指導部の大山先生からは入試全般の概要から日大の付属推薦や基礎学力到達度テストに関するお話がありました。進学先や自分の適性についてさまざまな角度から考えつつ、目の前の学習にはコツコツと取り組むという姿勢を貫いて欲しいと思います。

説明会の後半では、Gクラスは国・数・英の各先生から学習のアドバイス、Sクラス（他大一般受験者含む）は本校卒業生数名にパネラーとして登壇してもらい、大学での生活や大学入試に関する体験談を語ってもらいました。身近な卒業生からのお話は、先生からのお話とは違った視点でさまざまな気づきがあったと思います。2年生3学期は「3年生0学期」と言われます。冬休みを良い機会に、本格的な受験勉強へと向かっていってほしいと思います。

9月6日（土）には3年生対象の進路説明会も行いました。日大の付属推薦や基礎学力到達度テストに関することから、一般選抜で他大を目指す生徒を対象にこちらも卒業生によるパネルディスカッションを行いました。受験生という立場から、先輩たちの経験談はとてもためになる話ばかりで3年生たちは集中して話を聞いていました。

## 2年生卒業生パネラーとして登壇してもらった卒業生

- ◆埼玉大学 工学部
- ◆早稲田大学 文学部
- ◆青山学院大学 教育人間科学部
- ◆上智大学 経済学部

## 3年生卒業生パネラーとして登壇してもらった卒業生

- ◆埼玉大学 工学部
- ◆東京都立大学 人文社会学部
- ◆早稲田大学 文学部
- ◆青山学院大学 教育人間科学部
- ◆中央大学 法学部



# 共通テスト同日体験にチャレンジ！

1/17,18に大学入学共通テストが行われます。他大進学を目指す1,2年生は共通テスト同日体験にチャレンジしましょう。

**2年生の場合、1年後の本番を見据えて、GMARCH志望者は5割、早慶上理志望者は6割を目標としたいところです。**

同日体験は主に以下の2つの予備校で実施しています。

**東進ハイスクール**…東進ハイスクール各校舎で受験する。

新課程に対応した問題を一部の科目で出題する。

**河合塾**……………自宅受験（オンライン）

## 申込みはQRコードから

東進ハイスクール  
同日体験受験  
申込みはこちら



河合塾  
共通テストチャレンジ  
申込みはこちら



# いよいよ入試本番！合格ラインを突破！

一般選抜に向けて、クラス担任との面談を通じて受験スケジュールを考えてきました。第1志望が固まった今、改めて「合格最低点」について確認しておきましょう。

**大学受験において満点は必要ありません。合格最低点（合格ライン）をクリアすれば良いのです。**各大学の合格最低点を調べ、このラインを上回るための戦略を立てていきましょう。もちろん年ごとの入試問題の難易度や倍率の変動、科目数や配点の変更などによって、合格最低点は上下します。それでも合格可能性を探る上で大きな指標となることは間違いありません。ここでは全体的な概略を説明します。各大学の合格最低点は、大学ホームページや「マナビジョン」などの受験サイトで調べてみてください。

## (1)私立大学

私大個別入試（3教科型）の合格ラインは70%、難関私大の共通テスト利用型では、80%以上の得点率が必要です。共通テスト併用型であれば、個別試験での逆転を考え70%台でも勝負できます。

## (2)国公立大学

昨年度の入試においては、医歯薬系や超難関校を除くと、共通テストにおいては、全体的に65%前後がボーダーラインでした。近年共通テストが難化した影響もありますが、先述の難関私大の「80%以上」という数字に比べると、意外とボーダーが低いと感じる生徒も多いのではないのでしょうか。

## 私大個別入試「7割」を超えるには

「3教科トータルで7割を超えれば良い」という意識で臨みましょう。安定して高得点を狙える得意科目で8割、苦手科目でも6割を目指すといった戦略が一般的です。3教科の得点率を「6・7・8」とします。**苦手科目の克服にばかり時間を割くのではなく、自分の武器である得意科目も磨いていくことが重要です。**

## 国公立は先ず「7割」を超えよう

目標得点を7割とした場合、5教科の割合を「6・6・6・8・9」と設定してはどうでしょうか。**得意科目は9割を目指し、準得意科目は8割をとる。ここまですれば、その他の科目は「6割で良い」と考えると、少し肩の力が抜けるでしょうか。**

## 赤本貸し出し中！

図書室では12/2～1/10の期間で長期貸出しを行っています。赤本は最大8冊まで貸出しできます。図書室には主要大学の赤本はほぼ網羅されています。積極的に活用してください。

## Column

こんにちは。進路指導部の石原です。私は理科の生物を主に担当しています。教員という仕事をしていると、生徒から「なぜ勉強するのか？」と質問されることがあります。この問いに対して、皆さんは自分なりの答えを持っているのでしょうか。答え方はさまざまありますが、私は生物の教員として、「ヒトの脳が最も発達し、神経細胞のネットワークが活発に形成される時期が中・高校生の時期だから」と答えています。

ヒトは妊娠9か月の胎児の段階で、およそ大人と同程度の数の神経細胞(約140億個)を持つといわれています。その後、成長とともに神経細胞同士のネットワークが急速に発達し、新たな知識の獲得、複雑な思考、探求心や好奇心の高まりを経て、18~20歳頃に脳の働きは一つのピークを迎えます。高校生である皆さんは、まさに人生の中で最も「学ぶ力」が高まっている時期にいるのです。ここで言う学習とは、参考書の問題を解くことだけを指すわけではありません。留学を試みる、職業について話を聞く、大学を実際に訪れてみるなど、自分がこれまで知らなかったことを知り、経験することも大切な学習です。こうした学びを積み重ねることで、脳は「面白い」「もっと知りたい」と感じる対象を次々と見つけ出していきます。

一般に、20歳を過ぎると神経細胞は1日10万個減少すると言われていています。ショックな事実ですね…。しかし、脳の働きにおいて本当に重要なのは、神経細胞の数ではなく、神経細胞同士がどのように結びついているか、つまりネットワークの質です。日頃から学ぶとする意識や、新しいことに挑戦する姿勢を持続していれば、脳は年齢を重ねても活性化し続けます。だからこそ、高校生のうちに幅広い分野の知識を得て、多様な経験を積むことには大きな意味があるのです。ぜひこれからも学びを止めず、将来の自分への自己投資を続けてください。

受験生の皆さん。今の皆さんの脳は、自分史上最大限に働いていると言ってもよいでしょう。不安と向き合いながら、毎日長時間の学習に取り組んでいることと思います。そのむたむきな努力の経験は、これからの長い人生を必ず豊かにしてくれます。皆さんが希望する進路を実現できることを、教職員一同、心から応援しています。(進路指導部 理科 石原 裕介)